

「第34回 連携室の連携」は11月12日(土曜日)西鉄イン福岡大ホールで開催しました。

開会にあたって淵野泰秀会長は「7対1入院基本料の厳格化をはじめとした診療報酬改定の影響が顕在化しています。本日も大いにディスカッションを繰り広げ、同じ悩みを持つ者同士で助け合いましょう」と挨拶。施設活動報告は、①北九州古賀病院・宮崎正之氏、②九州中央病院・須川友弘氏、③福岡リハビリテーション病院・高木千枝子氏が、それぞれの施設概要、地域連携への取り組みなどを発表しました。

シンポジウム「地域の中での地域包括ケア病床の役割(送る側・受ける側)～連携室としての対応・考え方～」には、宮崎亮副会長の座長のもと3人のシンポジストが登壇しました。小倉記念病院の古本祥枝氏は、急性期病院である自院から地域包括ケア病床への転院実績を分析。①医療区分がない②すぐの自宅退院が難しい③回復期リハ病棟の対象でないがリハビリが必要—などの患者を同病棟で紹介するケースが多い。反面で「紹介に迷う」ケースとしては高薬価の服薬、定期的な外来通院が必要、ターミナル期のがん患者などを挙げました。

一方で地域包括ケア病床を有する戸畑けんわ病院の大川内恵子氏は、自院の在宅復帰機能強化型・療養型病棟と連動した在宅復帰への取り組みを紹介。同院では全職種を対象とした「退院支援プロジェクト」を発足させ研修やワークショップを中心に精力的に展開した結果、職員の意識変化がみられ「全ての病棟で退院支援に取り組む意識・ミッションが醸成された」と報告しました。また開業医で高齢者医療・在宅医療に取り組む、とよしまファミリークリニックの豊島元院長は「高齢者の場合、病気を治すことのみが目標ではない。残された時をどれだけ本人と家族に満足してもらえるか、という視点も大切」と指摘。ケアや生活支援、QOLを見据えた医療連携が、今後の地域包括ケアシステムの構築に不可欠であることを強調しました。



III・福岡リハビリテーション病院  
高木 千枝子氏

II・九州中央病院  
須川 友弘氏

I・北九州古賀病院  
宮崎 正之氏

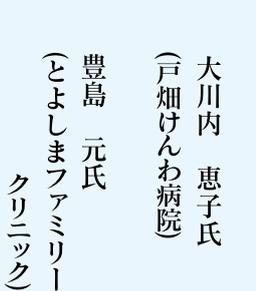
### 【施設活動報告】

会長 淵野 泰秀氏  
(百十字病院 病院長)

### 【会長挨拶】

- 1 会長挨拶
- 2 施設活動報告
- 3 シンポジウム
- 4 新規参加施設紹介
- 5 その他

### CONTENTS



II・シンポジスト  
古本 祥枝氏  
(小倉記念病院)

I・テーマ  
『地域の中での地域包括ケア病床の役割(送る側・受ける側)』  
「連携室としての対応・考え方」

座長 宮崎 亮氏  
(木村病院 副院長)

### 【シンポジウム】



【第二部 懇親会】  
プロツソ  
(西鉄イン福岡 13階)

### 地域医療連携推進室

TEL 093-952-0743  
FAX 093-952-0750  
メール fukurenkei@gmail.com

### 【事務局連絡先の変更】

副会長 宮崎 亮氏  
(木村病院)  
福岡鳥飼病院  
看護小規模多機能型 七星  
新吉塚病院

### 【新規参加施設紹介】